

平和記念公園・関連施設の紹介

1 平和記念公園

平和記念公園は、中島地区一帯を恒久平和の象徴の地とするとともに、市民の憩いの場所とする計画のもとに、昭和24年（1949年）8月に公布された「広島平和記念都市建設法」に基づく記念施設として整備されました。その後、被爆50周年に向けて再整備を行い、現在の姿となっています。

その面積は、原爆ドームの所在する区域を含めて、122,100m²です。

公園内には、原爆被災資料の展示場や平和学習の場としてのホールや会議室がある広島平和記念資料館、原爆死没者を追悼し、被爆体験を後代に継承することを目的とする国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、国際交流活動の拠点となる広島国際会議場、休憩所などがある広島市平和記念公園レストハウス、原爆ドームや広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）をはじめとする多くの慰霊碑、記念碑があります。

このうち、原爆ドームは、平成7年（1995年）6月に文化財として史跡指定され、平成8年（1996年）12月には世界遺産に登録されました。その後、広島市原爆ドーム保存事業基金の一部を充て、令和3年（2021年）4月に第5回目の保存工事が完了しました。

また、昭和30年（1955年）に建設された広島平和記念資料館が、平成18年（2006年）7月5日に戦後建築物としては初めて国の重要文化財に指定され、さらに平和記念公園が、平成19年（2007年）2月6日に戦後に整備された公園としては初めて国の名勝として指定されました。また、平成20年（2008年）3月28日には、残りの部分が追加指定され、平和記念公園の河川沿いの区域を除くほぼ全域が国名勝になりました。



平和記念公園

◇ 「平和の門」

「平和の門」は、フランス政府の後援により「平和の壁」プロジェクトを推進している芸術家のクララ・アルテール氏と建築家のジャン=ミッシェル・ビルモット氏が世界平和を祈念し制作したものです。歴史を超えて、未来に向けて開かれた、記憶と希望の「かけはし」を表現しています。被爆 60 周年の平成 17 年（2005 年）7 月 30 日、広島市に寄贈されました。



「平和の門」

同門は、広島市の平和記念公園に面した平和大通りの南側緑地帯に設置された高さ 9m の 10 基の門からなり、広島平和記念資料館の柱と並行に同じ間隔で並んでいます。また、ガラスとステンレスで構成される表面には、世界の主要言語（49 か国の言語）で「平和」の文字が記されています。